

EXPO

edition

WORKS EXTRA

EXPO edition WORKS EXTRA
— 万博の年、まちに物語を紡ぐ建築たち —

2025 年大阪・関西万博開催の前後に完成を迎えた数々の建築プロジェクト。それらは単なる施設ではなく、まちに新しい息吹を吹き込む「物語」をその身に纏っています。

例えば万博会場と大阪公立大学を結ぶ線は大阪の東西を貫く中心軸です。その両端の建築に当社が関わっているのは、大阪のさらなる発展の「物語」に関わっているということに他なりません。

あるいは長崎のまち。人と文化の出会い、人と時間の出会い、そして人と人の出会いを司る建築が、新しい長崎の「物語」を立ち上げています。

そんな「物語」を集めたこの冊子に触れて、建築が持つ様々な可能性を感じていただければ幸いです。

目次

— 大阪のさらなる発展の物語	
大阪・関西万博と安井建築設計事務所	3
EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」	5
フランスパビリオン	7
Osaka Metro 中央線 夢洲駅	9
うめきたグリーンプレイス	11
大阪城 豊臣石垣館	13
大阪公立大学 森之宮キャンパス	15
— 長崎の新しい物語	
長崎スタジアムシティ	17
ホテルインディゴ長崎グラバーストリート	19
西九州新幹線 長崎駅	21
— ひとつの建築がまちに描く物語	
SLOW ART CENTER NAGOYA	23
BIG-TREE（山形市民会館整備事業）	25
安井建築設計事務所 東京事務所 「美土代クリエイティブ特区」	27



2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）東ゲート

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）

2025 年 4 月 13 日（日）～ 10 月 13 日（月）の会期で大阪・夢洲で開催されている「2025 年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）（主催：公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会）」において、安井建築設計事務所は様々な建築の設計や支援業務に参画した。

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマのもと、生命、自然、多様性、包摂性といったキーワードを実体化するため、万博会場へとつながる夢洲駅をはじめ会場内の諸施設・パビリオン建設に至るまで、私たちは数多くのチャレンジを重ねてきた。そこでは来場者の豊かな体験を実現することはもちろん、リサイクル、リユース、脱炭素などの環境負荷低減に貢献する工夫を随所に凝らしている。そしてそこには SDGs を超え SDGs Beyond へ、さらには Society5.0 へと続く道を切り開くものでありたいという願いが込められている。

- 1. EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」
- 2. フランスパビリオン
- 3. Osaka Metro 中央線 夢洲駅
- 4. 東ゲート
- 5. 東ゲートマーケットプレイス
- 6. 案内所
- 7. 団体休憩所
- 8. 熱供給施設・熱供給設備 *
- 9. 熱供給設備 *
- 10. JAPAN マルシェ
- 11. 管理施設 **
- 12. 風の広場マーケットプレイス **

* 設備設計のみ ** 基本設計のみ

「いのち輝く未来社会」をカタチにする



海や大地との関係をセレクトする 生命のような建築



2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）
EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」

所在地 大阪府大阪市
延べ面積 約 4,800 m²
竣工年 2025

複数の帯状のスラブが織りなす屋外の広がり、屋内のイベントの場が入り混じる、生き生きとした環境を目指した。敷地に対して斜めにかしいだ帯の方向は、関西を斜めに貫く地形のしわや、淀川水系へと抜ける定常風の方
向とも共鳴している。このようにしてジオグラフィックな生命体としての地球と結びつけられた建築は、風や水、光のエネルギーをまとった、未来の記憶となる。
リサイクルやリユースに注力し、ゼロエミッションを目指すとともに、環境シミュレーションを通した合理的な計画や木材の再利用が地球環境負荷の低減に貢献する。
Society5.0 と SDGs Beyond を満足するイベント空間を実現し、経済資本と自然資本が調和する日本の生命圏を世界に示すものであり、訪れる人々は自然の風や光や水を感じながら様々なステージでアクティビティを楽しむことができる。



日本文化には、互いの小指をつなぎ、切れることのない目には見えない魔法の糸によってふたりが結ばれていることを想起させる「赤い糸の伝説」というものがある。その赤い糸になぞらえ、フランスパビリオンでは、目には見えない個人や集団の取り組みを顕在化させ、現在の社会や環境が直面している課題への答えを示したい。ここでは、生きることの意味と、そのもっとも美しい次元である「愛」に導かれた新しいビジョンを、集団的で普遍的な創造の世界を通じて提案する。6 か月間の博覧会期間中、パビリオンを中心に繰り広げられる芸術・科学・テクノロジーが、愛に満ちた未来像を育むとともに、世界中からの来場者との創造的な対話をとり持つことになる。フランスパビリオンでは、建築・展示スペース・BtoB イベントや一般公開イベントなど、「愛」をテーマにした展示やプログラムを通じ、来場者は五感を使ってユニークな体験をあげることができる。

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）
フランスパビリオン

所 在 地 大阪府大阪市
延べ面積 約 4,000 m²
竣 工 年 2025



愛に満ちた未来像を育む 感動体験の場



ファーストパビリオンー目的となる駅



大阪・関西万博の開催や IR 等が開業し国際観光拠点となる夢洲。その玄関である夢洲駅は万博のレガシーとしての一面を残しながら、移り行くまちのフェーズに柔軟に対応する新駅である。

万博を契機に新しい文化や技術を波及させる駅として、交通手段としてだけでなく、「駅」自体が目的となる「これからの駅・交通の在り方」を模索した。

コンセプトは、「移世界劇場」。まちとともに走ってきた Osaka Metro だからこそできる、いきる＝動くこと、移動の魅力を発信する駅。

デザインの核となる鏡面の「折り紙天井」は、運行ダイヤ図をモチーフに折り紙で表現。人々の姿や門型の照明、サイネージの映像を柔らかく映し出し多彩なシーンを創る。

劇場のように、人々が物語の一部となり、様々な動きを体感できる場所となることを目指した。

Osaka Metro 中央線 夢洲駅

所在地 大阪府大阪市

延べ面積 4,448 m²

竣工年 2025



「みどり」と「イノベーション」の融合拠点であるうめきた 2 期地区の玄関口に位置し、大阪駅うめきた地下口の直上に完成した地上 3 階建ての商業施設である。外部通路が建物外周を取り囲む計画とし、来客動線の回遊性を高めることで賑わい創出を目指した。

うめきた 2 期区域まちづくりの融合拠点のシンボルとすべく、みどり豊かな広場をはじめ各所に様々な緑化を施している。

グラングリーン大阪に直結する 3 層吹き抜けの明るく開放的なアトリウム空間をはじめとして、訪れる利用者はこの建物のいたるところでみどりを体感できる。



当社が設計に関与した大阪駅周辺の主な建築
*1 大阪ステーションシティ・サウスゲートビルディング
*2 THE OSAKA STATION HOTEL, Autograph Collection
*3 大阪駅南広場

うめきたグリーンプレイス

所 在 地 大阪府大阪市
延べ面積 9,218 m²
竣 工 年 2025



自然と都市が調和する
大阪の新たなランドマーク

大阪城の重層的な歴史を体感 感動できる施設づくり



大坂夏の陣で勝利した徳川家によって埋められた、地中にある豊臣期大坂城の石垣を公開する展示施設である。この展示が、大阪城の歴史の重層性を体感させ、大阪城そのものの見え方を変える仕掛けとなり、来館者に歴史を伝え感動を与える建物として計画した。

地上でのガイダンス後、来館者が地下にある石垣に印象的に出会う仕掛けとして、単に地下に降りるだけではなく、地中に潜っていく没入感を演出するよう、地下へ向かう階段からはすぐに石垣を見せず、また地下の高さにある壁は地層風の仕上げとした。石垣への期待を高め、また石垣に出会った後には様々な角度から石垣を見学できるように空間を形成し、出会いの期待感とその余韻を演出している。

最後に石垣の辿った歴史世界に没入するシアター映像を映し出す空間で、壮大な歴史の重層感を体感できる。展示は一方通行の動線として、展示計画と一体となった施設構成となっている。

大阪城 豊臣石垣館

所在地 大阪府大阪市

延べ面積 786 m²

竣工年 2024



全学部・学域の入学生が最初に学ぶ場として整備された大阪公立大学・森之宮キャンパスは、大阪東西の都市軸における重要拠点・森之宮に立地し、「知の森」をコンセプトに多様な学びと交流を生む都市型高密度キャンパスを目指した。

地上13階、高さ約60mの建物に約6,000人の教職員・学生が集い、大阪城公園の緑と呼応する3層ピロティや「樹形柱」が来訪者を迎える空間となっている。

中庭を中心としたスパイラル状の活動空間は有機的なつながりを生み、多様性を象徴する。空調・照明・入退館などをスマート化し、アプリ制御とデータ連携で省エネモデルを構築。外壁にはコモレビスクリーンやエコスキンを採用し、日射負荷を抑えつつ眺望を確保。高効率設備や自然通風設計により持続可能性を追求した。ピロティには府内産木材を用い、地域資源循環にも配慮。隣接する中浜下水処理場で超高度処理された下水処理水の活用により空調・トイレでも環境負荷を低減している。

大阪公立大学 森之宮キャンパス

所在地 大阪府大阪市

延べ面積 79,262 m²

竣工年 2025



「知の森」をコンセプトに
まちとつながる都市の新拠点



日常にひらかれたスタジアム複合施設



サッカースタジアムを中心に、アリーナ、オフィス、商業施設、ホテルなど多様な機能を備えた民間主導の大型複合施設である。来場者の視点に立った細部へのこだわり、日常にひらかれた空間づくり、施設全体を巡る遊環構造、そして次世代を見据えた環境配慮により、長崎から新たな都市の価値を発信することを目指している。

施設は長崎特有の丘陵地や海に面した立地を活かし、まち並みに自然と溶け込む建築とした。スタジアムには最先端の設備が導入され、視認性や快適性に優れた観客席、大きなガラス面やアーチ形状による開放的かつ未来的な空間が広がる。商業、文化、宿泊などの多機能を融合させた構成により、日常的な利用を促すとともに、地域活性化にも寄与。自然エネルギーや省エネ設備の導入、緑地や広場の整備を通じて、持続可能で魅力ある都市空間の実現を目指している。

長崎スタジアムシティ

所在地 長崎県長崎市
延べ面積 194,684 m²
竣工年 2024



長崎市南山手エリアに位置し、国選定重要伝統的建造物群保存地区に含まれる、1898 年築の煉瓦造の伝統的建造物をホテルへとコンバージョンしたプロジェクトである。もとは修道院として建てられたこの建物は、歴史的・文化的価値が高く、既存の外観を保存しつつ新たな用途へ転用することで、その魅力を未来へと継承している。構造面では、赤煉瓦造りの外壁をそのままに、内部の木造部分を撤去し、鉄骨造フレームを新設することで耐震性を確保し、現代の安全基準を満たす建物へと改修された。煉瓦外壁は鉄筋挿入工法により補強しており、外装には地域に親しまれてきた意匠を復元・維持している。内装はホテルとして新たに整備され、長崎の「和・華・蘭」文化を取り入れたデザインにより、歴史的建築と現代的インテリアが調和する空間を創出している。また、レストランとして使用されている聖堂部分では、リブ・ヴォールト様式の天井（高さ約 10m）やアーチ型のスタンドグラスが可能な限り保存・修復され、当時の雰囲気を感じられる空間が実現している。

ホテルインディゴ長崎グラバーストリート

所在地 長崎県長崎市

延べ面積 4,553 m²

竣工年 2024

古の建築を未来につなぐ



大屋根がつくる新たな長崎の風景



100年に一度の変革期を迎えた長崎駅。新幹線の開業と在来線の高架化という大きな転機のなかで、それらを一体化させる駅の再整備が実現した。長崎の新たな玄関口にふさわしい姿を目指し、新幹線と在来線を一体に包む大屋根を設け、明るく開放的なホーム空間を創出。日本の新幹線駅として初めて膜屋根を採用し、海に向かって広がる三次元的な屋根のかたちは、訪れる人々に長崎の未来への躍動を感じさせている。

この象徴的な大屋根は、複雑な鉄骨架構をBIMで緻密に検討し、曲率や部材構成を最適化することで、合理性と美しさを両立させた構造である。駅全体がひとつのランドマークとなるように設計され、都市の顔としての存在感を放っている。

また、コンコースには長崎に根ざした素材——レンガタイル、鉄材、木材を用いることで、まちの歴史や文化を体感できる空間を構成している。交通インフラとしての機能を超えて、地域の記憶を未来へつなぐ場として、長崎のまちに新たな息吹をもたらしている。

西九州新幹線 長崎駅

所在地 長崎県長崎市

延べ面積 3,701㎡

竣工年 2022



名古屋市中区錦三丁目の暫定活用事業は、建築主の三菱地所、施設運営のコマンド A らと共に、アートと Wellness にフォーカスした運営コンセプトのもと、経済活動を行いながら地域のコミュニティを長年にわたり育てる施設として 2024 年に開業した。

通常の建設プロジェクトのように、建設して解体するのではなく、「スロー」の概念に基づく建築とまちの在り方を模索し、期間終了時にリユースすることを前提に、建設から分解、再建を繰り返すことが可能な建設手法を採用。建物の再利用・コミュニティを育む運営体制・回遊性を生む外部空間というソフト・ハードの両面から企画し、この場を起点に建築とまちと地域社会の新たなつながりが生まれることを目指した。

このような「新陳代謝」の仕組みは、まちの隙間や再開発用地への「次の活用」が試みられている。

本プロジェクトは、栄地区の賑わい向上に資することを目的としており、暫定利用は 2028 年 3 月末までを予定している。

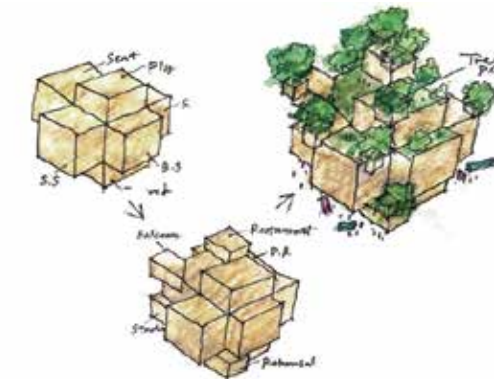
SLOW ART CENTER NAGOYA

所在地 愛知県名古屋市
延べ面積 935 ㎡
竣工年 2024



人とまちをつなぐアート・イノベーション

まちから BIG-TREE 内部へのウォーカブルなつながり



山形市では、文化芸術の振興に加え、中心市街地の回遊性向上と賑わい創出を目的に、公民連携による新たな市民会館の整備を進めている。

その名称「BIG-TREE」には、山形の自然・歴史・文化を土壤に、市民活動が枝葉のように広がる一本の大樹のような建築と組織を目指すという願いが込められている。設計と施工によってつくられる「根」から運営という「幹」を育て、多様な日常活動が「枝」として伸びていく、有機的な仕組みを志向。施設には、商業・医療・子育てなど地域に必要な機能を組み込み、文化や芸術との連携も図る。

1階には三方に開かれたオープンスペースを設け、市民の自由な交流を促進。屋上まで連なる立体構造「FLOW」により快適な回遊を可能にし、各階に活動拠点を配置。2階にはドキュメンタリーフィルムライブラリーを整備し、映画祭と連携してまち全体を祝祭空間とする構想も描かれている。

BIG-TREE（山形市民会館整備事業）

所在地 山形県山形市

延べ面積 11,440㎡

竣工年 2029（予定）



安井建築設計事務所 東京事務所
「美土代クリエイティブ特区」

所在地 東京都千代田区
延べ面積 約 3,000 m²
竣工年 2024

地域との接点を持つ当社の東京オフィス。「自由・自治・自律」のカルチャーのもと、社員自らの企画や対話を通じて社会とつながり、この場に関わる人々が成長・活躍できる環境を提供することを目指した。

1階のまちとつながるスペースは路地側を大きく開放し、地域のための土間的な空間とした。ここでの活動や雰囲気は、各階の吹き抜けとフロアの回遊動線によって2階、3階の執務エリアまで伝わり、地域や社会との接続を意識したビジネスマインドを醸成する。

1966年に竣工した建築をリノベーションし利用し続けることによるエンボディード・カーボンの削減や、ZEB Orientedの取得に加えて、クラウド技術による設備システムの稼働、そしてバイオフィリックデザインを取り入れたウェルビーイングな空間による生産性の向上など、これからのオフィス、働く場の姿を、社会に提案している。このオフィスから生まれる変化の連鎖が、まちに新たな回遊性とカルチャーをもたらし、地域社会の持続的な変容に寄与することを目指している。

まちとつながり、人を育てるオフィス



WELL 認証（WELL V2）ゴールドを取得

米国・健康面に配慮した建築の性能評価制度「WELL Building Standard（以下、WELL 認証）」の WELL v2 ゴールドランクを取得した。働く人や訪れる人の「快適さ」「心地よさ」「集中」「コミュニケーション」「リラックス」そして「自主的イベント／活動」を組み合わせた自立型のカルチャーが評価される WELL 認証を目指した。「美土代クリエイティブ特区」が掲げているコンセプトの先進性やイノベーションは、世界的認証機関からも高い評価を得た。



ZEB Oriented（BELS で 5 つ星）評価を取得

美土代クリエイティブ特区が入居する「WORK VILLA MITOSHIRO」のリノベーションを当社が設計し、ZEB Oriented 評価を取得した。約 60 年前に竣工し、環境性能的にも不利なこの時代の 20,000 m²を超える大規模建築が ZEB Oriented（BELS 5 ☆）を達成することは極めて珍しいケースである。



2010 年に始まった音楽イベントも「平河町ミュージックス in 神田」として継続。アーティストとの協働による実験的な公演を通じて、地域文化の醸成に寄与している。



サントリーホールで長年使用され、著名ピアニストたちが演奏した歴史あるスタンウェイ・グランドピアノ（No.495730）を、「美土代クリエイティブ特区」1 階に迎え入れ設置した。



建築を学ぶ大学生による卒業設計展を開催。会場には学生の設計作品が並び、社会人によるショートプレゼンも行われ、世代を超えた交流の場となった。



2024 年に始まった東京建築祭では、2 年連続となるオープンハウスを開催。ワークショップやオフィスツアーを通じて多様な参加者が集い、建築や設計、ものづくりの魅力に触れる貴重な機会となった。

本編掲載の実績業務は安井建築設計事務所（安井）の設計、監理によるものであり、写真掲載の下記実績については関係各社との共同、業務区分によるものです。（原則として竣工時の組織名称あるいは略称、JV= 共同企業体）

2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）東ゲート デザイン監修：藤本壮介建築設計事務所 基本設計：安井・昭和・東畑設計 JV、実施設計・監理：大林組、安井 **東ゲートマーケットプレイス・案内所・団体休憩所・JAPAN マルシェ・熱源供給施設** 基本設計：安井・昭和・東畑設計 JV、実施設計・監理：大林組、安井 **管理施設・風の広場マーケットプレイス** 基本設計：安井・昭和・東畑設計 JV **EXPO ナショナルデーホール「レイカーデン」** 基本設計：安井・平田晃久建築設計事務所 JV、実施設計・監理：鴻池・安井・平田晃久グループ **フランスパビリオン** デザイン設計：Coldefy & Carlo Ratti Associati、基本設計・実施設計（建築・構造）：安井、実施設計（設備）：環境空間設備、監理：安井＋アトリエ CK **Osaka Metro 中央線 夢洲駅** 設計：大阪市高速電気軌道、安井、監理：大阪市高速電気軌道、意図伝達：安井 **うめきたグリーンプレイス** 設計・監理：ジェイアール西日本コンサルタンツ・安井設計 JV **大阪城 豊臣石垣館** 設計・監理：大阪市都市整備局、安井 展示：乃村工藝社 **大阪公立大学 森之宮キャンパス** 基本計画・基本設計：日本設計、実施設計（建築・設備）・監理：安井、（構造）：竹中工務店、CM：日建設計コンストラクション・マネジメント **長崎スタジアムシティ** 基本計画：竹中工務店、環境デザイン研究所、基本設計：環境デザイン研究所・安井 JV、実施設計・監理（スタジアム・ホテル・商業）：竹中工務店、（アリーナ・オフィス）：戸田建設、（駐車場）：松尾建設、PM・CM：三菱地所設計 **ホテルインディゴ長崎グラバーストリート** インテリアデザイン：DESIGN STUDIO CROW **西九州新幹線 長崎駅** 基本デザイン・デザイン監修：設計領域、設計：鉄道建設・運輸施設整備支援機構、安井、監理：鉄道建設・運輸施設整備支援機構 **SLOW ART CENTER NAGOYA** 設計（建築）・監理：安井、オンデザイン、irodori、（構造）：Graph Studio、（設備）：安井、企画・設計監修：中村政人（コマンド A）、設計協力：ai level＋藤田幹人（クラフトノーツ） **BIG-TREE（山形市民会館整備事業）** 設計（建築）：安井、平田晃久建築設計事務所、平吹設計事務所他、（構造）：鈴木建築設計事務所他、（設備）：安井他

写真提供・撮影（50 音順）

大河内禎、大阪市（提供）、岡泰行、コマンド A（提供）、仲和、鈴木研一、ToLoLo studio、千葉顕弥、鉄道建設・運輸施設整備支援機構（提供）、ナカサンドパートナーズ、日刊建設通信新聞社（提供）、ピクスタ、平田晃久建築設計事務所（提供）、フォト・ビュロー、森トラスト（提供）



www.yasui-archi.co.jp

2025.9